

## 環境負荷の把握と環境汚染の防止

オカムラグループは、環境汚染防止のため、環境リスクマネジメントの強化と法令遵守の徹底に取り組んでいます。全生産事業所において環境マネジメントシステム（ISO14001）を活用し、基準値の逸脱、環境に関する苦情や事故につながるリスクを特定・評価しています。その結果を踏まえたうえで対策を実施し、継続的なリスク低減を図っています。

### 化学物質排出・移動量の削減

オカムラグループでは、製造段階における塗装工程や接着工程など、事業活動に伴いさまざまな化学物質を使用しており、PRTR制度\*1対象物質の排出・移動量に関して目標値を設定し取り組んでおりますが、法改正により対象物質が増加したため、2024年度の排出・移動量は原単位前年度比24.9%減少しました。塗装前処理剤や接着剤をPRTR制度の届出対象物質\*2を含まないタイプに切り替えるなどの対応により、着実な削減を図っています。

\*1 PRTR制度：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の中で、事業者が対象化学物質の移動量・排出量を把握し、国に届け出ることを義務づけた法律

\*2 届出対象物質：取扱量が1,000kg/年以上の物質

### 製品に含まれる化学物質の管理

環境負荷低減の観点から、製品製造時や原材料に含まれる化学物質が環境や健康に与える影響を評価し、化学物質の管理を強化しています。加えて、汚染防止のため、開発・生産部門をはじめとする関連設備の適正管理を徹底しています。

オカムラグループでは、表面処理剤、接着剤、樹脂、化粧品などに化学物質を使用しています。化学物質を含有している材料に関しては、安全データシート（Safety Data Sheet：SDS）をメーカーより入手して各生産事業所で一元管理し、危険有害性や環境への影響の評価、必要に応じたリスク低減措

置を行っています。また、製品の開発・設計時に製品アセスメントを実施し、規制の対象となる化学物質が使用されていないかを確認し、使用されている場合にはより環境負荷の少ない材料へ変更しています。

2024年度において、オカムラの事業活動に関連する環境汚染に関わる法令違反、苦情や事故、行政処分、環境関連の訴訟は0件でした。また、環境リスク評価の透明性を確保するため、各事業所における環境リスク評価の実施状況を記録・管理し、定期的に見直しを行っています。

### 専門教育の実施

オカムラグループでは、2024年4月の労働安全衛生法改正に伴い、化学物質管理体制の強化を図っています。各生産事業所において、化学物質を取り扱う管理職を対象に、行政主催の講習会受講や外部講師による集合教育を実施し、専門知識の向上を図りました。集合教育では、化学物質のリスクアセ

スメント、記録の作成・保存、労働者への教育など、管理者に求められる職務について学びました。また、一般従業員に対しても、管理者からの指導や安全教育を通じて、化学物質の適正な取り扱いを周知徹底しています。今後も継続的な教育を実施することで、安全な管理体制の維持・向上に努めます。

### 有害物質の適正管理による汚染防止

オカムラでは、ポリ塩化ビフェニル（PCB）含有機器類として保有していた蛍光灯用安定器を、2023年度に指定処理施設へ搬出し、法令に基づく適正な処理を完了しました。化学物質管理の徹底を図るため、有害物質の表示・保管・取り扱いに関するルールを策定し、有害物質の取り扱いに関わる従業員への教育・周知を実施しています。今後、新たにPCB廃棄物が発見された場合は、法令に従い迅速かつ適正に処理を行います。



外部講師による管理者研修